

## [006]附属環境工学研究教育センター研究活動報告

<https://doi.org/10.15017/7183565>

---

出版情報：附属環境工学研究教育センター研究活動報告. 6, 2024-07-16. Center for Research and Education of Environmental Technology, Faculty of Engineering, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



## 編集後記

未曾有のコロナ禍が沈静化したと一息ついたのも束の間、昨年度は予想外の出来事が世界中で多発し、世界情勢が大きく不安定化しております。また、我が国においても新年早々、石川県能登地方を震源とする令和6年能登半島地震に見舞われる等、予断を許されない状況が続いております。このような活動の制限を余儀なくされる状況におかれましても、本センターにご参画頂いております先生方やその学生達が逆境に負けることなく研究・教育活動に邁進し、先進的かつ素晴らしい研究成果の創出を継続されている姿に安心感と頼もしさを感じると共に、「自身も頑張らないと！」と自己発奮に繋げる今日この頃です。

さて、怒涛のような1年間における本センター活動の結実として、附属環境工学研究教育センター活動報告第6号を無事発行することができました。例年に負けず劣らずのボリュームで研究活動、研究実績、社会連携・国際協力啓発活動、外部資金導入実績等が掲載されております。これもひとえに皆様の並々ならぬ努力とご協力のおかげです。

情報分野出身の私としては大流行した「AI」や「LLM」という用語に振り回された昨今でしたが、それに負けず劣らず耳にした用語が「SDGs」という印象です。2030年までの新しい国際開発目標として掲げられたSDGs（持続可能な開発目標）ですが、アカデミックではない普段の生活の中でも耳にする機会が多く随分一般化したなあと感じます。SDGs達成において科学技術イノベーションとの関連については改めて申し上げるまでもないと思います。我が国はエネルギー資源に乏しく、地形、地質や気象等の自然条件から災害が発生しやすい国土です。それらに先述した不安定な世界情勢も相まって、「SDGs」の一般化はこの状況を打破するかもしれないSDGsへの興味とその達成に資するであろう科学技術イノベーションへの期待の表れなのかな、と前向きに捉えています。そういう意味では、当該分野の教育研究を担う本センターの役割と活動意義は大きく、活動報告の発行においてもサステナブルを体現していかないとなあと感じる次第です。

最後に、本報告の作成・編集にあたって、ご協力頂いた皆様に御礼申し上げますとともに、本年度にて本センターから卒業される参画教員・職員の皆様方にはこれまでのご指導・ご尽力に深く感謝申し上げます。

(谷口記)